

表 第5回 湯西川ダムモニタリング委員会における委員指摘事項と対応

項目	委員指摘事項	対応
水質	<ul style="list-style-type: none"> ・貯水池内の温度躍層付近と下層で溶存酸素が低い原因は、流入有機物である落葉の可能性がある。その場合は沈降した落葉によって底層での嫌気化が発生していることが考えられ、年々嫌気化が進む可能性がある。(浅枝委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、底層 DO を監視する。 ・今後、流入層における有機物指標を調査する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年6月に発生した淡水赤潮について、発生メカニズムとして光が関係していないか確認したほうが良い。(浅枝委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・日射量等の気象データを確認する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・湯西川ダムでは冬期に放流水温が上昇しているが、五十里ダムの放流水温も確認しておくことが良い。(浅枝委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・湯西川ダム地点における水温と五十里ダム放流水温を確認する。
猛禽類	<ul style="list-style-type: none"> ・猛禽類が繁殖している巣と湖面との高低差について整理してもらいたい。(由井委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・繁殖の時期と貯水位の関係を整理する。
植生	<ul style="list-style-type: none"> ・湖岸部の植生について、常時満水位以下である汀(なぎさ)付近の標高の土砂流出と植生の状況についても整理に加えると良い。(谷本委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・常時満水位以下の状況については、定点写真の経年変化を整理する。
移植した植物	<ul style="list-style-type: none"> ・過去に移植した植物は、一定程度の活着が確認されているものと、活着せずに消滅したものがある。(谷本委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度にも活着状況の確認を行う。
鳥類	<ul style="list-style-type: none"> ・各地点の調査結果を総括した鳥類リストを作成しておくが良い。(由井委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・総括鳥類リストを作成する。